



未来志創

よし! 廣晴ろう!

「自分らしさ」

3学期が始まりました。昨日、久々に2Bの皆さんの顔を見ることができて嬉しかったです。2学期末にクラスの行動を振り返り、具体的な改善案を考えました。50日間という限られた時間ではありますが、「このクラスでよかった」と思えるクラスにしたいです。アイデアを出し合って終わり…ではなく、具体的な行動に移してみませんか? 「行動=挑戦(challenge)」です。

さて、昨日は書き初め大会がありました。60分という与えられた時間を最大限に使って書いている人もいて、一人一人が集中していました。「金賞」「銀賞」「銅賞」という結果は出ました。見事に賞を獲得した人たち、**おめでとう!**一方、賞がもらえなかったからといって、落ち込む必要はありません。**集中して渾身の1枚を書き上げた**のですから、「**これが自分の字だ**」と誇っていいと思います。あなたの字は、あなたにしか書けません。これも「自分らしさ」なのではないでしょうか。今日は、**書道家・武田双雲さん**のお話を紹介します。



人生いろいろ、字もいろいろ♪

皆さんにお伝えしたいのですが、「お手本」というのは必ずしも「正解」ではありません。お習字が面白くないのは、お手本どおり書かなきゃいけないからです。

もちろん、「**綺麗な字**」というのは**それだけで書き手の印象を良く**してくれます。だからお手本をまねするのはいいんですが、お手本だけが正解だと思って、「ダメな自分の字を正解に近づけなきゃいけない」というのが苦しいんです。お化粧で言えば、「自分はブサイクだから綺麗にならなきゃ」と思いながらモデルさんのお化粧を真似し続けるようなものですから。

ある程度の上手・下手はもちろんあります。でも、とにかく上手だったらいいってものでないし、そもそも突き詰めれば「上手って何だ」という哲学のような話になってきます。どんなにイケメンや美女でもなんだかいけ好かない人っていますよね。また、ある人から見たらパツとしてなくても、別の人にとっては世界一の美女、なんてこともあるでしょう。

字も同じです。いろんな書道家を連れてきても、人気投票をしたらばらばらになるはずですよ。

字というのは結局**その人自身を表しています**。僕も字を見れば「これを書いた人はこういう性格の人だな」と分かるんですよ。

普段、何気なく書いている字を一度じっくり見てみてください。そこにはきっと**味のある、面白い「個性」があるはず**です。

「日本講演新聞(2020/1/1 第2818号)」より